

01DE101

文化生成論 I

(Studies in the Genesis of Culture I)

授業方法 演習

標準履修年次 1・2年

単位数 3単位

開設学期・曜時限 1~3学期 火曜日 3時限

担当教員 濱田 真

研究室 人文・社会学系棟 B811

オフィスアワー 予約により随時

教育目標・授業の到達目標

文化生成をめぐる諸問題を文化史的、思想史的に正しく把握し、独自の視点から問題にアプローチする能力を身につける。

授業概要

近現代ドイツの文化論の系譜を辿りながら、時間的変化の層において文化を捉える立場について考察する。歴史哲学、感性論、言語論、想起論などを手がかりにして文化生成の諸問題について考える。

成績評価方法

毎回の授業に積極的に参加し、自らの問題意識を論理的かつ明確に伝えることができるかを見る。各学期最低1回の発表をしてもらう。

その他

01DE103

文化動態論(1)I

(Language and Information I)

授業方法 演習

標準履修年次 1・2年

単位数 3単位

開設学期・曜時限 1~3学期 水曜日 3時限

担当教員 清水 知子

研究室 人文・社会学系棟 B608 (内線: 4118)

オフィスアワー 予約により随時

教育目標・授業の到達目標

暴力論の系譜を辿りながら、現代文化と暴力の表象に関する諸問題を検討する。

授業概要

本年度は暴力論に関する理論的な文献を解説しながら、現代社会における暴力概念の変遷とその表象について検証する。理論的にはジョルジュ・ソレル、ベンヤミン、アレント、デリダの暴力論を比較検討する予定だが、テキストの詳細については授業中に指示する。

成績評価方法

毎回の授業への参加度、口頭発表、レポートをもとに総合的に評価する。

その他

特になし。

01DE105

文化動態論(2) I

(Cultural Dynamics (2) I)

授業方法 演習

標準履修年次 1・2年

単位数 3単位

開設学期・曜時限 1～3学期 水曜日3時限

担当教員 山口 恵里子

研究室 人文・社会学系棟 B715

オフィスアワー 予約により随時

教育目標・授業の到達目標

芸術と文化・社会との動的な関係を人類学・美術史・身体論の領域を横断しながら検証する。

授業概要

19世紀から20世紀にかけてのイギリス美術を軸にして、イタリアという「場」との関係、「大陸」の芸術（フランスやドイツの芸術）との比較、日本美術との相互影響を検証しながら、芸術のダイナミズムを考察する。

成績評価方法

授業への出席、参加態度、発表等をふまえて総合的に評価する。

その他

01DE107

文化構造論 I

(Cultural Structure I)

授業方法 演習

標準履修年次 1・2年

単位数 3単位

開設学期・曜時限 1~3学期 木曜日 3時限

担当教員 佐藤 吉幸

研究室

オフィスアワー 予約により随時

教育目標・授業の到達目標

文化、思想の諸問題を考察するための基本的理論を習得する。

授業概要

ミシェル・フーコーの1978-1979年講義の記録『セキュリティ・領土・人口』を読解し、フーコー後期の統治性理論、自由主義分析について考察する。テキストは以下のフランス語原書、あるいは英訳書を用いる。

Michel Foucault, *Sécurité, territoire, population, Cours au Collège de France (1978-1979)*, Gallimard/Seuil, 2004.

——, *Securit, Territory, Population, Lectures at Collège de France*, Palgrave Macmillan, 2007.

成績評価方法

授業への参加態度と学期末のレポート課題によって、総合的に評価する。

その他

特になし。

01DE109

文化対照論 I

(Contrastive Studies of Culture I)

授業方法 演習

標準履修年次 1・2年

単位数 3単位

開設学期・曜時限 1~3学期 木曜日 5時限

担当教員 対馬 美千子

研究室 人文・社会学系棟 B815 (内線: 6548)

オフィスアワー 予約により随時

教育目標・授業の到達目標

修士論文を執筆するために必要な能力をつけることを目標とする。具体的には、授業のテーマに関する幅広い知識をつけること、思想・文学の文献の精読を通して、理解力、思考力を高めること、外国語文献の購読を通して、語学力を向上させることを目標とする。

授業概要

表象と語りえぬものの関係について、主に思想・文学の文献（例えば、ベンヤミン、アガンベン、カルース、ベケット等）を講読することにより探求する。学生が自由に表象と語りえぬものに関わる研究対象を決め、発表する機会ももうける。

成績評価方法

授業中の発表、学期末に提出する小論文により評価する。

その他

01DE111

文化差異論 I

(Studies in Cultural Differences I)

授業方法 演習

標準履修年次 1・2年

単位数 3単位

開設学期・曜時限 1~3学期 金曜日 3時限

担当教員 竹谷悦子

研究室 人文・社会学系棟 B705

オフィスアワー 予約により随時

教育目標・授業の到達目標

国家の枠組みを超えた環太平洋文化ネットワークを読み解く。

授業概要

<戦争の記憶>

二十世紀のアジアの戦争をめぐるカルチュラル・メモリーをテーマに、記憶とナショナリズムの諸問題を多様な文化テキストの分析を通して検証する。1学期は、従軍慰安婦をめぐる日本と韓国の記憶、2学期は第3次インドシナ戦争／中越戦争の記憶、3学期は沖縄／オキナワの記憶を考察する。

成績評価方法

ディスカッション、口頭発表、レポート

その他

テキストはすべて英語

01DE113

文化現象論 I

(Studies in Cultural Phenomena I)

授業方法 演習

標準履修年次 1・2年

単位数 3単位

開設学期・曜時限 1~3学期 火曜日 4時限

担当教員 江藤 光紀

研究室 人文・社会学系棟 A712 (内線: 4170)

オフィスアワー 予約により随時

教育目標・授業の到達目標

1. 文献の精読能力の向上 2. 論文作成能力の向上（問題意識に沿った適切な設定・構成） 3. 芸術作品に対する適切な叙述能力・評価能力の育成

授業概要

ある社会において芸術のさまざまなジャンルがどのように生まれ、広がっていくのかという現れを研究する。日本や欧米圏を対象地域とし、受講者の関心を汲みつつテキストを決める。

成績評価方法

出席、授業への積極的な参加、発言。文献精読に加え、各自の研究テーマに沿った発表を取り入れる。他に年に数度、展覧会やコンサートに出かけてもらい、レポートを作成してもらう。

その他

01DE115

文化コミュニケーション論 I

(Studies in Cross-cultural Communication I)

授業方法 演習

標準履修年次 1・2年

単位数 3単位

開設学期・曜時限 1~3学期 火曜日 6時限

担当教員 武井 隆道

研究室 人文・社会学系棟 A 714 (内線: 4171)

オフィスアワー 予約により随時

教育目標・授業の到達目標

文化をコミュニケーションの総体と捉える立場から、文化論の基本的知識を習得し、それをもとに比較文化的な観点から文化を主体的に考察する能力を養成する。

授業概要

十八世紀ヨーロッパの身体をめぐる諸言説を、原典、または翻訳を通じて講読し、当時の身体表象の文化的機能を現代のそれと比較し、社会・空間・時間における個人の位置づけの歴史的変化を考察する。特にヴィンケルマン、レッシング、ゲーテの美術論を巡る歴史論考を扱う。

成績評価方法

レポートによる。

その他

ドイツ語または英語の学力を前提とする。

01DE117

文化批評論 I

(Cultural Criticism I)

授業方法 演習

標準履修年次 1・2年

単位数 3単位

開設学期・曜時限 1~3学期 金曜日 4時限

担当教員 川那部保明

研究室 人文・社会学系棟A 7 2 3

(内線: 4 1 5 2)

オフィスアワー 予約により随時

教育目標・授業の到達目標

広くポエジーを主題とした文章の批評的読解に慣れること。

授業概要

文学・芸術関係の詩的言語として書かれた文章を読み、それらがもたらす創造性について考察する。対象とする文章は、授業のなかで話しあい決めてゆく。

(とっかかりとして詩誌 L' EPHEMERE (1967-1972) 掲載のいくつかの文章を考えています。)

成績評価方法

授業への参加度。

その他

01DE119

異文化地域論(1) I

(Cross-cultural Area Studies (1) I)

授業方法 演習

標準履修年次 1・2年

単位数 3単位

開設学期・曜時限 1~3学期 水曜日 2時限

担当教員 畔上泰治

研究室 人文・社会学系棟

オフィスアワー 金曜日 11:30-12:00 (その他：予約)

教育目標・授業の到達目標

この授業では、20世紀以降のヨーロッパを対象に、その文化や社会状況を考察し、現代文化研究の基本的な知識と方法を習得することを目指しています。

授業概要

本年度はまず、クラインマン他『他者の苦しみへの責任』（坂川雅子訳、みすず書房）を教材として用い、政治や経済状況、自然災害などにより人々が受けた苦しみメディアを通して可視化されていく過程における諸問題の研究を通して、人間に対するさまざまな形の「暴力」と「痛み」について考えていく予定です。

また、授業においてはレポートの提出や発表等の場において、基本文献・資料の解釈や注の付け方等、論文作成や口頭発表の際に必要な基本的な学術的な事項についても随時指摘していきます。

成績評価方法

成績は、レポートならびに授業における議論・発表状況を総合的に判断して評価します。

その他

01DE121

異文化地域論（２）Ⅰ

(Cross-cultural Area Studies (2) I)

授業方法 演習

標準履修年次 1・2年

単位数 3単位

開設学期・曜時限 1~3学期 火曜日 6時限

担当教員 江藤 秀一

研究室 人文・社会学系棟 A624 (内線: 4127)

オフィスアワー 予約により随時

教育目標・授業の到達目標

現代文化の諸問題を対象に、その生成や変容状況などを様々な視点から学ぶ。英語の文献を十分につかひこなせる力を養う。

授業概要

本授業では英国圏とみなされる諸地域の文化の問題を取り上げる。本年度は18世紀のイギリス小説を読みながら、そこに描かれた人々の暮らしぶりについて考察を加える。現在から300年近い昔の状況を今日のわれわれがどの程度具体的に理解できるかを考えてみたい。

成績評価方法

授業の参加度、レポートの内容を総合して評価する。

その他

作品の輪読をおこなう。テキストは開講時に指示する。

01DE123

異文化地域論（3）I

(Cross-cultural Area Studies (3) I)

授業方法 演習

標準履修年次 1・2年

単位数 3単位

開設学期・曜時限 1~3学期 金曜日5時限

担当教員 宮崎 和夫

研究室 人文・社会学系棟 B717

オフィスアワー 予約により随時

教育目標・授業の到達目標

スペイン語で書かれた人文学系の学術論文の読解力を向上させ、スペイン語圏文化についての知識を深める。

授業概要

スペインおよびスペイン語圏諸地域の文化の様々な側面を、他のヨーロッパ諸地域の文化、イスラーム文化、アメリカ先住民諸文化等との、対峙と交流の観点から、共時的かつ通時的に考察する。スペイン語で書かれた文献を講読する。

成績評価方法

平常点。

その他

教材は開講時に配布する。

01DE125

異文化交流論 I

(Studies in Cross-Cultural Contacts I)

授業方法 演習

標準履修年次 1・2年

単位数 3単位

開設学期・曜時限 1~3学期 水曜日 2時限

担当教員 馬籠清子

研究室 人文・社会学系棟 B606 (内線: 4116)

オフィスアワー 予約により随時

教育目標・授業の到達目標

異文化間の関係を、一つの視点や理論のみから分析するのではなく、いくつかの具体例に違った角度から注目することによって、柔軟に考える。

授業概要

エッセイ、文学、音楽、映像などの異なるメディアを通して、異文化が接触、対立、交流するいくつかの場面に焦点を当て、分析する。

成績評価方法

授業中の発表内容と学期末のエッセイ。

その他

01DE127

異文化言語論 I

(Studies in Cross-cultural Communication and Language I)

授業方法 演習

標準履修年次 1・2年

単位数 3単位

開設学期・曜時限 1~3 学期月曜 4 時限

担当教員 小松 祐子

研究室 人文・社会学系棟 B703 (内線: 4148)

オフィスアワー 予約により随時

教育目標・授業の到達目標

フランス語圏文化への深い理解と多角的なフランス語運用能力の習得・伸長をめざした授業を行う。

授業概要

フランコフォニーに関する文献の抜粋を読み、フランス語圏諸地域の言語文化について理解を深めるとともに、現代世界のなかでフランス語圏が抱える問題について考える。

成績評価方法

授業への参加態度、提出課題などを総合的に考慮して評価する。

その他

使用文献（抜粋）はプリントで配布する。

01DE133

境域文化論 I

(Studies in Cultural Borders I)

授業方法 演習

標準履修年次 1・2年

単位数 3単位

開設学期・曜時限 1~3学期 火曜日 5時限

担当教員 中田 元子

研究室 人文社会学系棟 A622

オフィスアワー 予約により随時

教育目標・授業の到達目標

19世紀イギリスにおける葛藤、交渉の様相を考察することによって、現代の文化的境域に生じる摩擦、葛藤を理解し、対処する方法を探る。英語文献を使いこなせるようになるための読解力を養う。

授業概要

19世紀イギリスを中心に、階級間、ジェンダー間、人種間の境域で生じた交渉・葛藤について、文学作品、新聞・雑誌などを通じて考察する。

成績評価方法

授業への貢献度、レポートなどによって総合的に評価する。

その他

01DE135

イメージ生成論 I

(Studies in Genetic Images and Figures I)

授業方法 演習

標準履修年次 1・2年

単位数 3単位

開設学期・曜時限 1~3学期 火曜日 5時限

担当教員 吉野 修

研究室 人文・社会学系棟 A726

オフィスアワー 予約により随時

教育目標・授業の到達目標

現代文化に関わる諸問題を、イメージや表象に焦点を当てながら論考して、各自が研究すべき方向性を発見することを目標とする。

授業概要

現代文化をイメージが生成し消滅する現場ととらえ、言語や映像芸術におけるイメージの諸相とその意義を論考する。

本年は、エマニュエル・レヴィナスを参照しつつ、さまざまなイメージ論を研究する予定。

成績評価方法

授業貢献度、レポートなど。

その他

資料・文献等は開講時に指示する。